

分担研究報告書

がん患者の療養生活の最終段階における体系的な苦痛緩和法の構築に関する研究

がん疼痛の治療アルゴリズム構築に関する研究

研究分担者 田上恵太 東北大学 大学院医学系研究科 講師
研究協力者 宮下光令 東北大学大学院医学系研究科 緩和ケア看護学分野
森田達也 聖隷三方原病院 緩和支援診療科
山口拓洋 東北大学大学院 医学系研究科 医学統計学分野

研究要旨：がん拠点病院・緩和ケア病棟ではない医療機関、緩和ケアの専門家が不在な医療機関においても専門家が行う「がん疼痛の症状緩和」が行えるようなアルゴリズムの構築を目的としている。本研究ではアルゴリズムの構築と併せて、現在のがん疼痛への治療の実態の調査を行うことで、がん患者の痛みがどのように症状緩和されているかを明らかにするだけでなく、構築しているアルゴリズムの妥当性も併せて検証する。

A. 研究目的

すべての医療機関において緩和ケアの専門家が行う「がん疼痛の症状緩和」が行えるような標準的がん疼痛治療アルゴリズムの構築を目的としている。併せて、現在の本邦におけるがん疼痛への治療の実態の調査を行い、どのように症状緩和されているかを明らかにする。

B. 研究方法

先行研究や現在の実臨床の実情を踏まえながら、研究協力者間でがん疼痛治療の標準的なアルゴリズムを構築する。またがん拠点病院の緩和ケアチームががん疼痛の症状緩和目的に介入した患者を対象に、がん疼痛の治療の状況や有効性の評価、難治性疼痛の因子の分析を行う。

（倫理面への配慮）

がん疼痛の治療の実態調査は、緩和ケアチームの通常診療の過程で取得されるものであるが、患者登録情報を特定できない様な対処を行う。

C. 研究結果

現在研究者間でアルゴリズムの草案を構築している。また観察研究のプロトコルを作成している。

D. 考察

現在研究に向けての準備を行っている。がん疼痛の治療の実態と、対処が難しい難治性がん疼痛の因子抽出が行えるような研究デザインを構築している。

E. 結論

現在研究に向けての準備を行っている。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表

現在研究に向けての準備を行っている。解析後は、がん疼痛の治療を受ける患者の疫学調査の結果、およびアルゴリズム構築とアルゴリズム治療の有効性の検討を英語論文で報告予定である。

2. 学会発表

上記の研究結果を国内、および海外の緩和ケアに関する学術学会において発表を行う予定である。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特許取得の予定はない。

2. 実用新案登録

実用新案登録の予定はない。

3. その他

特記事項はない。